





6	ひき算	計算のしかた ・ 答えに約分や帯分数のある異分母分数の加法のしかた ・ 異分母分数の減法の意味と計算のしかた ・ 答えに約分がある異分母分数の減法や(仮分数) - 帯分数)の計算のしかた	通分して計算しているペアとそうでないペア(分母同士をたしたりひいたりしてしまう等)を比較して、異分母分数の加・減法の仕方が理解できるようにする。 ・ 通分そのものの意味とやり方が理解できない(分母をそのままにして分子同士のたす、ひくをしてしまう子供など)について、個別指導を通して、通分の必要性和やり方について理解を深める。 ・ どんどんコースの子供には、さいころの数字を大きくすることで意欲を高めるとともに、負荷を与えていく。				
	(3)まとめ いろいろな立体 【10】 (1)箱の仲間分け (2)直方体と立方体 (3)見取図と展開図 (4)角柱と円柱	・ 箱当てゲームから箱の仲間わけ ・ 仲間わけをもとにした直方体や立方体の定義を理解 ・ 直方体や立方体の構成要素調べ ・ 直方体や立方体の面と面、辺と辺の垂直と平行を三角定規、L字をもとに調べる活動 ・ 直方体と立方体の展開図の理解とかき方の習熟 ・ 全体の様子が一目でわかる見取図の意味と特徴を理解 ・ いろいろな角柱の名称や構成要素調べ	・ 図形に関するレディネステストを行い、学級主体の中で、図形が苦手な子供を抽出してじっくりコースを設定し、個への支援を行いやすくする。 ・ 自分の身の回りにある様々な箱を、面の数や形などから仲間分けするという具体物を用いた算数的活動を充実させるための支援をする。 ・ 個々の考えや意見を練りあう場面を重視し、単元に対する関心を高める。 ・ 既習事項に関する定着度や関心度の個人差を考慮したきめ細かな指導をする。 ・ 直方体や立方体の構成要素を調べるために、辺や面の数などに着目させ、習熟に合わせて、具体物を用いたきめ細かな支援をする。 ・ 物差しや三角定規の使い方を徹底指導する。また、平行な辺を平行に描くことをまず目を使って徹底的に指導していく。 ・ 立方体の構成要素や面・辺の関係に気づくために、具体物の操作や念頭による操作など、クラスの習熟状態や興味にあわせたきめ細かな支援をする。 ・ 角柱や円柱の構成要素を調べるために、具体物を通して、辺や面などに着目させきめ細かな支援をする。				立方体・直方体・角柱・円柱の構成要素及び位置関係に着目して考察処理することのよさに気付き、その特徴をとらえようとする。 図形の構成要素や位置関係に着目して考察しながら、立方体や直方体、角柱や円柱の特徴を考えることができる。 立方体および直方体の構成要素の個数や位置関係を調べたり、角柱や円柱の特徴を調べたりすることができる。 立方体及び直方体について、辺や面の平行・垂直などの関係も含めて理解し、三角柱や四角柱などの角柱及び円柱について理解している。

(5)まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>直方体と立方体のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちやくちやくコースでは、個の学習状況に応じて円柱や角柱の展開図を描くように投げかける等、立体への理解を深めるような支援を行う。</li> <li>じっくりコースでは、展開図・見取り図が正確に描けるように繰り返し練習したり、具体物操作をすることで立体への理解を深めていく。</li> </ul>					
<p>体積【13】</p> <p>(1)大きさ比べ</p> <p>(2)公式さがし</p> <p>(3)直方体・立方体の体積</p> <p>(4)大きな体積と大きさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きさ比べ</li> <li>任意単位での測定と体積の保存性の確認</li>   <li>1?の立方体の積み木の個数による求積</li> <li>操作活動をもとにした直方体と立方体の求積公式の理解と活用</li> <li>箱作り</li>   <li>m<sup>3</sup>単位で表された大きな直方体の体積の求め方</li> <li>1 m<sup>3</sup>と1 cm<sup>3</sup>の単位の関係</li> <li>1 m<sup>3</sup>とリットル、ミリリットル1 cm<sup>3</sup>の単位換算</li> <li>直方体を組み合わせた形の体積の求め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元のレディネステストを行い、「はやぶさコース」「二重とびコース」「普通とびコース」から、子供たち自身がコース選択できるようにする。</li> <li>「はやぶさコース」の子供は、9種類の箱を用意し、一番大きな箱を見つける活動において、比較方法を考えたり、水・砂などを用いて比較したりしながら、普遍単位を見つけるまでの活動を充実させるための支援をする。</li> <li>「二重とびコース」「普通とびコース」の子供は、2つの寒天を用意し、操作的活動を通して、普遍単位のよさに気づくようにきめ細やかな支援を行う。</li> <li>1cm<sup>3</sup>のブロックを使って、求積公式を見つけるために、一段目を並べて段を重ねたり、縦と横の数から全体の個数を見つけだしたりするような活動に広がるように、きめ細かな支援をする。</li> <li>箱を作る活動において、難易度に合わせたコース設定とコースの課題を達成させるためのきめ細かな支援をして、量感を育てる。</li> <li>1m<sup>3</sup>の立方体の大きさを体感できる器具を用意し、体験的な活動や比較する活動を通して、1 m<sup>3</sup>とリットル、ミリリットルと1 cm<sup>3</sup>の関係や単位換算が理解できるようにきめ細かな支援を行う。</li> <li>体積あてっこゲームを通して、直方体を組み合わせた形や、大きな直方体から小さな直方体を取るといった考え方に慣れ、計算式を用いて体積が求められるよう支</li> </ul>					<p>面積と同じように、立体図形の体積も単位の大きさのいくつ分として数値化できるよさに気づき、立方体や直方体の体積の求め方を考えようとする。</p> <p>立方体や直方体の体積の求め方を考えたり、測定しやすい図形に分ける工夫をしたりすることができる。</p> <p>立方体や直方体の体積を求めることができる。</p> <p>体積の意味、その単位と測定について理解し、必要となる辺の長さを測定することで、立方体や直方体の体積が計算によって求められることを理解している。</p>

	<p>(5)角柱の体積</p>	<p>・角柱の体積の求め方</p>	<p>援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はやぶさコース」「二重とびコース」は、L字型の図形から、すべての角柱が底面積×高さで求められることに気づくように、板書を工夫したり、1cm<sup>3</sup>のブロックを用いる等の支援を行う。</li> <li>・「普通とびコース」は、立方体や直方体の求積公式や複合図形の求め方を確認することで、体積の理解を深めていく。</li> <li>・単位換算や複雑な立体の体積の求め方など苦手な部分を補充するために、きめ細かな支援をし、量感を育てる。</li> </ul>					
	<p>(4)まとめ</p>							

月	単元【時数】	学習内容	少人数での価値	指導形態				評価規準			
				一斉	習熟	学級IT	興味	関意態	思考	表処	知理
9	分数のかけ算とわり算(1) 【9】 (1)分数×整数の計算	学級編成のためのガイダンス ・(分数)×(整数)の意味と計算のしかた ・計算の途中で約分がある(分数)×(整数)の計算のしかた ・(仮分数)×(整数)の計算のしかた ・(分数)÷(整数)の意味の理解と計算のしかた ・計算の途中で約分のよさと簡単な約分のしかた ・まとめ	・具体的な操作や図による操作から数式での処理に発展させるための既習内容の定着の度合いに応じたクラス編成を行うためレディネステストを行い、子供の判断の基準とする。 ・分数の乗法や除法の計算のしかたを整数をもとにして考えられない子供に対して面積図などを利用して整数をもとした計算の活用ができるように個別指導をする。また理解の程度の高い子供に対しては自分の考えをまとめていく活動を多くする。 ・計算途中での約分の必要性を理解し、確実に素早く計算するために繰り返し指導をする。 ・計算のしかたが分かるだけでなく、計算の意味について十分に理解することができるようになるため、図を手がかりにして説明したり考えを練り合わせたりする場を十分に確保する。 ・問題づくりを通して、分数の乗法や除法の理解を深めるための支援を行う。					分数の乗法や除法の計算を、整数や小数の計算を基にして考えたり工夫したりすることのよさに気付くとともに、それらを活用したり説明したりしようとする。分数の乗法や除法の計算の意味を、整数や小数の範囲から発展させて考えることができる。分数の乗法や除法の計算のしかたを、整数や小数の計算を基にして考えることができる。帯分数を含まない分数の乗法や除法の計算を行うことができ、数学的な問題の解決に用いることができる。分数の乗法や除法の計算のしかたを理解している。			
	分数のかけ算とわり算(2) 【12】 (1)分数×分数の計算  (2)分数÷分数の計算  (3)どんな式になる	学級編成のためのガイダンス ・分数をかける意味の理解 ・計算途中での約分のしかた ・整数を分数と考える計算のしかたや求積公式の適用 ・分数でわる意味と計算のしかた ・計算の途中で約分をするしかた、整数を分数とみなして計算するしかた  ・分数の除法適用の問題作り	・前単元の評価テストから子供が自分の力を知りコース選択を行う。 ・図や数直線を用いた活動を通して、(分数)×(分数)の意味の理解を深めるために習熟にあわせたきめ細かな支援をする。 ・図や数直線を用いた活動を通して、(分数)÷(分数)の意味を理解させるために除法や約分のしかたなどの習熟に合わせたきめ細かな支援をする。 ・図や数直線を用いたり、計算法則を用いたりする工夫を通して、筋道を立てて考える力を伸ばすための支援をする。 ・じっくりコースではかんたんな数字で言葉の式を考えて立式できるよう支援する。					・文章題において、乗除法を適用する問題			

10	<p>のかな</p> <p>(4)まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の計算パワーアップ</li> <li>・計算ぶどう</li> <li>・分数さいころすごろくゲーム</li> <li>・評価ミニテスト</li> </ul>	<p>について演算決定することに対する子供のつまずきが多い。また、分数の乗除法についての演算決定では、かなりの子供たちががつまずくことが予想されるので問題場面を具体的にとらえられるよう、線分図等を利用し、きめ細かな支援をする。自分の問題を友達に出したり友達の問題を解いたりして相互交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ問題を解き、計算レベルがアップしたかを自己評価する場を設け、子供の自己診断にもとづく課題にあわせてきめ細かな支援を行う。</li> <li>・確実に計算できる子供に対して考える楽しさが味わえるよう発展的教材・教具を用意するなどの支援をする。</li> </ul>				
	<p>単位量当たりの大きさ 【16】</p> <p>(1)平均</p> <p>(2)単位量当たりの大きさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均の意味と求め方の理解</li> <li>・実際には均すことのできないものの平均</li> </ul> <p>学級編成のためのガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混み具合の意味と求め方</li> <li>・単位量当たりの大きさを求めるよさの気づきと処理</li> <li>・人口密度の用語と意味の理解</li> <li>・仕事の速さ、とれ高、単価 1mあたりの重さとその考え方を適用させた問題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数制限なしのグループをつくり、何があっても一人が1度しか振ることのできないという「さいころゲーム」をして、勝敗の決め方を考えたり操作したりする活動を通して多様な気づきを出し合い、様々な考え方にふれる。</li> <li>・人数が異なる場合の勝敗の決め方について考え、練りあう場を設ける。</li> <li>・新聞紙を使い、同じ枚数に何人乗れるか同じ人数で何枚の新聞紙が必要かを競争したり、人数も枚数もちがう場合についての「こみこみゲーム」をしたりして、練り合う場を設けながら、単位量当たりに着目させるための支援をする。</li> <li>・計算力の違いに応じ、課題の数値や課題の量・難易度を変え、きめ細かな支援をする。</li> <li>・習熟の早いコースが学習内容を先行したり、発展的な学習に取り組んだりし、その評価を生かして、つまずきに応じたきめ細かな支援を他のコースで行う。</li> </ul>				<p>【平均】</p> <p>集団の特徴を表す値として平均を用いるよさに気づき、身の回りにある事柄について平均の考えを用いて統計的に考察しようとする。</p> <p>身の回りにある事柄について、平均の考えを用いて考察することができる。</p> <p>集団の特徴を表す値として平均を用いることができる。</p> <p>集団の特徴を表す値として用いられる平均の意味や求め方、使い方を理解している。</p> <p>【単位量当たりの大きさ】</p> <p>異種の二つの量の割合でとらえられる人口密度や速さなどを、単位量当たりの考えなどを用いて数値化したり、それらを問題解決に生かしたりしようとする。</p> <p>異種の二つの量の割合でとらえられる人口密度や速さなどの表し方を単位量当たりの考えを用いて考えることができる。</p> <p>異種の二つの量の割合でとらえられる人</p>

(3)速さ

・チャレンジ

- ・速さの比べ方から速さの意味や表し方の理解
- ・時速での比べ方と速さのいろいろな表し方
- ・時速・分速・秒速の換算処理
- ・速さと時間から道のり
- ・まとめ

学級編成のためのガイダンス  
「わたしの単位量あたりに挑戦！」  
【発展的な学習】

- ・比べられる量ともとにする量の区別がつけられないというつまづきに対して、補完的なコースで5年での学習を思い出すもとにする値を見つけるなどの活動を取り入れたきめ細かな支援を行う。
- ・計算ができるだけでなく、求める割合にあった言葉の式を考えたりするなど、考え方が定着するようきめ細かな支援を行う。
- ・身の回りから単位量あたりを見つける活動をすることによって、平均や単位量あたりのよさに着目したり、速さに対する感覚を豊かにさせたりするために発展学習を行う。3コースを用意し子供が選択して取り組めるようにする。  
自分の歩幅を求める活動を通して、平均の考え方や単位量あたりの考え方をより習熟する場を設ける。  
学校の中の「単位量あたりの大きさ」を見つけだす活動から、一人当たりの水道の数や教室の面積を求めることで、1単位量あたりの大きさの意味や求め方を習熟する場を設ける。  
自分の歩く速さを求める活動を通して平均の考え方や速さの考え方をより習熟する場を設ける。
- ・身の回りの中から2つの量の割合を見つけ出そうとする子供の興味・関心を高めるような、魅力ある課題や資料を用意する。
- ・関心・意欲をより高めるよう、子供が興味をもつ教材を用意する。また、学習したどの部分を生かすことができるかなどの情報を与えてコースを選択するなど細かな支援を行う。

口密度や速さを求めることができる。  
人口密度や速さなどの比べ方や表し方について理解している。

比 【8】  
(1)比

- ・2量の関係を比で表すよさと方法の理解

- ・アルカス小学生サミットを開くという場面設定で学習を進め、意欲を高める。
- ・2種類のピザを用意し、二つの量を比で

比のよさに気付き、日常生活の中から比が用いられる事象を探したり、活用したりしようとする。  
日常生活の中の事象を割合と関連付けて

11	<p>(2)等しい比</p> <p>(3)比の利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの比が等しいことや二つの比に成り立つ性質の理解</li> <li>・二つの比に成り立つ性質を利用した問題解決</li> <li>・二つの比に成り立つ性質を利用した問題解決</li> </ul>	<p>表すことの有用性を実感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルピスを理想の比率で薄める活動を行いながら比の性質を理解できるような場を設定する。</li> <li>・数種類の容器を用意し、どの任意単位でも同じ1：4になることを体験的に理解できるような場を設定する。</li> <li>・サミットの参加人数分カルピスを作るという設定をすることで、課題に対して必要感もてるようにする。</li> <li>・ピザ一切れの中の具の比率を求め、等しい比の性質を利用して1人分と600人分の具を求める。</li> <li>・実際に具を置いて体験的、視覚的に比を理解できるような場を設定する。</li> <li>・3種類の具を扱うことで3量の比にも学習を広げる。</li> <li>・サミットに集まる国々の国旗の小旗を作るという場面設定をし、関心を高める。</li> <li>・習熟に合わせて、単純な比の模様や配分比の考え方を扱う模様、縦対縦の比を利用する模様、3連比の考え方を扱う模様など負荷を変えた問題を用意する。</li> <li>・同じ模様でも、いろいろなサイズを描くことで、比の性質をより深く理解できるように支援する。</li> </ul>		<p>比でとらえるなど、ものの見方や考え方を工夫することができる。</p> <p>二つの数量の関係を比で表したり、調べたりすることができる。</p> <p>二つの数量を比で簡潔に表したり、等しい比をつくったりすることができる。</p> <p>比の意味や表し方、比が等しいということの意味がわかる。</p>
12		<p>学級編成のためのガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの比に成り立つ性質を利用した問題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルカスサミット新聞を使い、習熟に左右されない興味関心別クラス編成ができるように支援する。</li> <li>・会場PRコース、広報担当コース、分配名人コースの3コースを設定し、それぞれ比の性質を利用して問題解決に取り組める場を設定する。</li> <li>PRコースでは、写真の中の比を用いることで、実際は測れない物の大きさを測ることに挑戦し、比を使うことの有用性や可能性に気づけるようにする。</li> <li>広報担当コースでは、様々に拡大された図柄の中から、おなじ比で拡大された図柄を探すことに挑戦し、比を使うこと</li> </ul>		

		<p>の有用性や可能性に気づけるようにする。          分配名人コースでは、配分比を利用して全体を部分に分けることに挑戦し、比を使うことの有用性や可能性に気づけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各コースともに、数値を簡単にしたものや負荷を軽くした問題を用意し、習熟の程度に応じられるよう場の設定を行う。</li> </ul>				
倍と割合 【5】 (1) 2つの量の割合  (2) 100%より大きい割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>倍で表した割合</li> <li>2量の割合の倍・百分率による表示のしかたの理解</li> <li>比べられる量の求め方</li> <li>100%より大きい割合の意味と求め方</li> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙テープ対決などを取り入れ、元にする量と比べられる量を意識して取り組ませる。勝敗を決め、勝ったペアにはシールを渡し、意欲を高める。</li> <li>計算のしかたが分かるだけでなく、計算の意味について十分に理解することができるようになるため、図を手がかりにして説明したり考えを練り合わせたりする場を十分に確保する。</li> </ul>				比的な2量の関係の割合を倍・百分率・歩合で表そうとする。 包含関係や比的関係にある2量をもとにする量を1として、比べられる量がいくなるかを数で表すことができる。 比べられる量やもとにする量を求め、比的な2量の割合を何倍、分数倍や百分率で表すことができる。 割合の意味、表し方を理解している。
およその面積【2】 <ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な形の葉の面積</li> <li>身の回りのおよその面積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の概形をとらえて面積を概測する方法</li> <li>いろいろなものや地図の概測</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の手や静岡県の地図から面積を求めることについて色を塗り分けて数えたり大まかな形にして考えたりするなどの意見を採り上げることで、多様な見方で面積が求められるような支援を行う。</li> </ul>				地図を利用して、いろいろな面積を求めることができる。 形の概形をとらえて、面積を概測する方法が理解できる。
正方形の中に正方形がいっぱい 【2】	<ul style="list-style-type: none"> <li>正方形探しと数の求め方</li> <li>方眼の中からnセンチメートルの正方形の数を数えるきまりの発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正方形の数を数える際に落ちや重なりがないようそれぞれ数えるスピードに合わせて支援を行う。</li> <li>1辺がnセンチメートルの正方形の中に『正方形がいくつあるか』という発展的な課題を設け、見方を変えれば容易に解決できる方法が発見できる算数のおもしろさを味えるようにする。</li> <li>1辺の長さを徐々に増やしていくことにより、計算式がどのように変わっていくかに着目させ、発展的な課題の手がかりとさせる。</li> </ul>				nセンチメートルの正方形において、小さな正方形がいくつあるかを考えようとする。 自分の解決方法を記録したり説明したりしながら、きまりを見つけ出すことができる。 小さな正方形を数えることができる。 発見したきまりを、他の問題解決の場面でも活用する。

月	単元【時数】	学習内容	少人数での価値	指導形態				評価規準			
				一斉	習熟	学級IT	興味	関意態	思考	表処	知理
1	比 例 【14】 (1)比例  (2)比例のグラフ  (3)比例の性質を使っ て  ・チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙の枚数と重さの関係、厚さの関係調べ</li> <li>比例の定義</li> <li>比例関係にあるものから、きまった数を見つけ比例の性質を理解</li> <li>比例関係を言葉の式で表す</li> <li>比例関係をグラフで表したり、グラフから比例関係を読み取ったりする活動</li> <li>比例関係を用いた問題の解き方</li> <li>地球の環境を予想する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>比例を使った問題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙の束の枚数と重さ・厚さの関係を調べる実験を通して、伴って変わる2つの数量の関係を考察し、比例関係を見つけ出す場を設定する。</li> <li>伴って変わる2つの量がそれぞれ2倍、3倍、4倍...の関係になることがつかめない児童に対して実際に目に見えるもので確認しながら支援する。</li> <li>身の回りの事象「自分の歳とお兄さんの歳」「食べたあめの数と残ったあめの数」などから、比例の関係にあるものを見つけ出しきまりを見つけるといった活動を通して、発展的な活動に取り組む。子供に対して、数 学的な見方や考え方を育てる場をあたえる。</li> <li>比例関係にある2つの数量についてのグラフの特徴について意見を出させ、確認することによって特徴をつかませやすくし、数字上、表には表れない部分においても比例していることを感じ取らせる。</li> <li>発展的学習として ミニロボコース（ミニロボの歩く時間と道のりの関係を調べる） おもしろグラフコース（いろいろなグラフについて考える） 影って素敵コース（直接測れないものを影を使ってはかる）を設定し、数 学的な問題解決の力を育む場を与える。</li> <li>少人数で、自由に測定方法を考えさせることで、数 学的活動の時間を確保する。</li> </ul>					評価規準 関意態 思考 表処 知理 比例関係に着目するよさに気づき、日常生活の中の伴って変わる2つの数量から比例関係にあるものを見いだしたり、問題の解決に活用したりしようとする。伴って変わる2つの数量から比例関係にあるものを根拠を明らかにして見つけだすことができる。比例関係にある2つの数量の関係を、表やグラフにすることができ、よむことができる。比例の意味や性質、比例の関係をあらわす表やグラフについて理解している。			
	2	(4)まとめ  学校を知ろう 【2】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の水道使用量</li> <li>学校で残るパン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の水道使用量や給食で残るパンについて百分率や比の考え方をを使って、生活の中の算数について考える活動を活発に行うために一斉型少人数の形態で行う。</li> </ul>					学校生活の中にある数量や数量関係を見つけ出し、比較したり考察したりすることができる。単位量当たりの量や割合の考えを使って比較したり考察したりできる。表から数量を読み取ったり、気づいたことを文章やことばで表現したりすることができる。		

					自分たちの生活の中に、数値によって考察できる場面が多数存在することが分かる。
算数のまとめ 【10】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力調べと学習方法の選択</li> <li>・数と計算領域に関する基本的な事項のまとめ</li> <li>・整数、小数、分数の関係や性質、計算のしかたのまとめ</li> <li>・量と測定領域に関する基本事項のまとめ</li> <li>・体積の求め方や速さの求め方の理解</li> <li>・図形領域に関する基本的な事項のまとめ</li> <li>・三角形や四角形、立体の展開図の作成</li> <li>・数量関係に関する基本事項のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生までの算数の学習を想起し、領域にまとめたり、自分の好きな領域や苦手な領域などについて、自分の力を把握したりする。(評価テスト・カード)</li> <li>・算数のまとめの学習計画をたて、自分のコースを決定する。</li> <li>・教科書の問題をもとに、じっくりと確かめをしていく子供や、定着しているのでその問題から分かることをまとめる子供など、その習熟度にあったきめ細かな支援をする。</li> <li>・子供にとって苦手意識のある「概数」のワークシートを用意し擬似体験をしたり分数迷路や魔法陣を用意して分数のかけ算わり算の習熟を図ったりするなど、子供のつまずき度により、学習選択ができる場を用意する。</li> <li>・6年間で学習する単位に関する表をもとに、単位に関する理解を深めたり、またそれらの量感を捉えたりしながら、単位換算に対する知識理解を深める支援を行う。</li> <li>・世界のトップランナーと自分とを比較しながら、速さについて習熟を深めるよう支援する。</li> <li>・「むしむし王国」の犯人さがしをもとに台形などの面積についても関心を高め、面積を求める公式さがしをする等、発展的な課題への挑戦に対する支援を積極的に行う。</li> <li>・既習事項がまだしっかり定着していない子供のつまずきに応じた補充ワークシートや発展ワークシートを多様に用意し、その中でのくり返し指導を重視したきめ細かな支援を行う。</li> <li>・1年間を通した算数日記をもとに、子供たちの興味関心にもとづいた「アルカス拡大コース」「学校様々平均コース」「</li> </ul>			<p>6年生までの領域別の基礎的・基本的事項を利用して、能率よく処理しようとする。</p> <p>数量や図形についての基本的な概念・性質・技能を活用して、いろいろな問題に取り組むことができる。</p> <p>6年生までに身につけた領域別の数学的な考え方や処理のしかたの良さの有用性をとらえることができる。</p> <p>領域別の基礎的・基本的事項を利用して問題を解くことができる。</p> <p>数量や図形についての概念・性質・技能などについて理解している。</p>

		<p>比を活用してボールの高さを求めるコース」を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが興味・関心でコースを選択できるような情報を与える。</li> </ul>				
算数ワンダーランド 【16】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電卓遊びコーナー</li> <li>・魔法陣に挑戦</li> <li>・体の物差し</li> <li>・数学の歴史からコーナー</li> <li>・表を使って問題を解くコーナー</li> <li>・きまりをさがすコーナー</li> <li>・ためしてみようコーナー</li> <li>・マジックミラーに挑戦</li> <li>・パスカルの三角形に挑戦</li> <li>・一筆書きに挑戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電卓を使って不思議な数の計算を行い、数のもつ面白さ不思議さを体感する。</li> <li>・難易度の違う魔法陣に挑戦するなかで、消去法による解決方法ではなく、数の組み合わせ方に着目して解けるように支援する。</li> <li>・小町算・旅人算・油わけ算・たちあわせ7つの橋が渡れるか・おもしろ展開図・盗人隠しなど、昔から多くの人を楽しんできたパズル的な問題を通して、算数への関心をより深めるためのきめ細かな支援を行う。</li> <li>・自分の体の一部を測定し、それを使って物の大きさを概測する場を設け、長さや大きさに対する感覚を育てる。測定作業におけるきめ細やかな支援を行う。</li> <li>・マジックミラーで線対称の図形を探したり、未完成の展開図に文字を入れてできあがり予想したりする課題を設定し、図形に対する感覚を伸ばす。</li> <li>・パスカルの三角形からきまりを発見したり、既習事項を使って三角形の中にできる模様を楽しんだりし、友達同士のかかわりあいの中で、算数の面白さを感じることができるよう支援する。</li> <li>・一筆書きに挑戦し、図形によっては、一筆がきができるもの、そうでないもの、などのきまりを発見し、図形に対する面白さを感じるようにする。作業の早い子には、その場で取り組むか、家でも挑戦できるように難易度の高い問題を用意して、意欲を喚起する</li> <li>・グループ活動による各コースへの挑戦などの活動も可能である。</li> </ul>				<p>電卓を活用して計算し、数や計算のもつおもしろさに関心をもつ。</p> <p>昔の考え方や単位などに触れ、算数に対して関心をもつ。</p> <p>三角数や四角数のおもしろさを味わい、規則性のあるものに関心をもつ。</p> <p>6年生までに身につけた領域別の数学的な考え方や処理のしかたの良さの有用性をとらえることができる。</p> <p>表を活用して数量の関係を発見したり数量の変化を表したりすることができる。</p> <p>数量や図形についての概念・性質・技能などについて理解している。</p>